夕刊
四月四日發行
定價 一ヶ月金六拾五錢（郵税共）
（日曜祭日翌日休刊）
東京電話番号 一〇六・五八五番

海の恩人（五）

童話

無人島から助けられてから、もう皆、いさぎよく萬次郎の萬歳を祝つて航海をつゞける事約六ケ月船は太平洋上の大きな都やらう』

ホノルルの港に着きました。

五人は一旦この港に上陸する事になりました。そしてこの町の人々のお世話で暮しました。その中に新聞を見て日本へ歸して貰ふ事になつたのです。五人をのお母さんによろしく言つて下さい。私が歸るまで待つてゐるやうに言つて下さい。

涙ながらに四人は萬次郎を船に送りました。

『何か言つておく事はないか』

『はい、鑑之丞小父さん、日本へ歸つたら、中濱の私のお母さんによろしく言つて下さい。私が歸るまで待つてゐるやうに言つて下さい。』

『よし、よし、分つた。』

『よし、よし、分つた。』

萬次郎の母さい、そして仕事に熱心な、そして仕事に真面目な態度に感心してゐたので、どうかしてアメリカへ連れて行つて立派な一人前の人間にしてやりたいと思ひついたのでした。

萬次郎はこの話をきいて

『小父さん、皆さんともお別れするのはつらうございますが、私はアメリカへ行きたうございます』

『何、たつた一人で行きたいと』

『はい。私はあの船の中でいろ〳〵考へました。私は生きて日本へ歸れるかどうか分りませんが、もし歸れるものでしたら、アメリカを選んだ學問や其他いろ〳〵な事を勉強して歸つたら少しは日本の國のお役に立つかも知れないと思ひます。私をアメリカに行かして下さい。きつと立派な人間になつて來ます』

『おゝよし萬次郎、行け、行け、』

しかし、中濱萬次郎がひとりぼつちになつたのでせう。

しかし、中濱萬次郎がひとりぼつちになつたのでせう。

いろんな苦しみの中にも元氣を落さず常に眞面目に、勉強切に、正直に、そして補助日本の爲にと勉強し働いて無事に日本に歸つて來た事は皆さんもお母さん一人の喜びと立つて、行燈へ油をつぎたしました。

だいぶ、夜は更けたやうである

『遅いこと……』

ふつと、茅江が呟いた。

何を考へてゐるのか、火鉢の前で默然と坐つてゐた庄太郎が、顔を上げて、

『さうですね。どうなつたんでせう？旦那は……いつも、こんなに遅くお歸りなんですか？』

『いゝえ』

茅江は首を振つて、左手を首筋へ廻し、後れ毛を掻き上げた。袖裏の赤い色がちらつと見える。

いそいで、庄太郎が目を外らした。へんに胸が息苦しくなるのだ

身裝を構はない茅江ながら、天禀の美しさが、やつれの見える中で耀くのだ。いゝやつれの見える中で耀くのだ。いゝや、やつれて居れば居へたゞけで、解放されたやうだけ、人に、可憐な花をうな氣持になるのだ想はすのではないか？

そのまゝ、二人はしばく默つてゐた。何かいはなければいけないと知つてゐて、妙に重いものか心一杯にこられ、こんな場合、適當な言葉をさがすのにまどつ。話し出せばお座なゝの何となく胸苦しくてならなこゝを つてしまふやうなのである。

『ほんとに、いろ〳〵と御人で、御飯をいたゞかうと存じましたから、あの人にもこざいます。旦那がお歸りになりましたら、よろしく仰有つて下さいませ』

『さうなつたか。それゝ殘念なことをした。わしは依田君たちに會つたものから……庄太郎は、兩國橋の方へ歸つたのだらう。わしは永代から歸つて來たが

『まあ！』

びつくりしたやうにち江

『どうなつたのです？お見さまお召物に、いつぱい泥がついて』

『はゝはは、何でもないんだ。何でもないんだ』

と、惣介は、やさしく笑つたゞけである。

其時分、兩國橋へ出た庄太郎が

『おい、庄さん——庄さんちやねわか』

と、誰かに呼び止められてゐた

『ほんとに、いろ〳〵と御人で、御飯をいたゞかうと存じましたから、あの人にも待つてゐてもらつたのでこざいます。旦那がお歸りになりましたら、よろしく仰有つて下さいませ』

『おゝ』

茅江は、熱つぽい目を上げて、

『もうお歸りですか？庄太郎さん』

『えゝ、歸していたゞきます……』

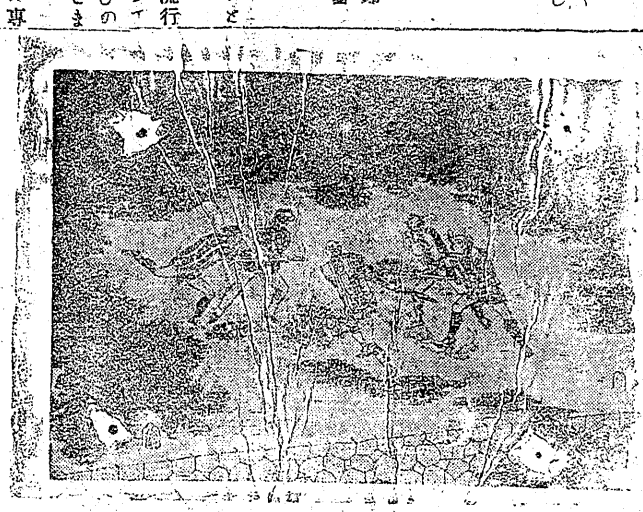
その方がいゝのだ、と庄太郎は思ふ。歸ることを考へるのだ。

『有難うございました』

と、またいつて、庄太郎は土間へ降りた。

茅江は、止めなかつた。

茅江にしても、自分によつて、こんな場合、適當なこの若い男と二人ッきりでゐることは、何となく胸苦しくてならないのである。



聲なき凱旋

西尾　生

○英靈を迎ふと女學生でしまつた2面輪に滿くうつる冬の日

○英靈の自動車の前吹き進むラッパかなしき風凍る街

○英靈に頭下げつゝ遺家族の人等のたつきに想ひ及べり

○白衣の兵列を正してみつめ居り英靈自動車靜かに進む

次蘇峰先生に南島韻（其の一）

珠雲　小野務平

桓々勇武與神件
皇旅胸中間且悠
旭旗所節無勁敵
瞬時攻畧海南州

△永井尚志海軍を起す（安政元）△辯護士の職服制定（明治二六）△外務省ソ聯の對支援助に關し當局談を發表（昭和一三）

恩讐無道（64）

久我莊多郎

香川三十代畫

■天の巻■

乘合馬車（十）

行燈の燈芯が、ヂイッと鳴つた

ちかごろ、ランプが流行だして大低の家では買つてゐるやうだが裏長屋住ひの茅江の家では、まだそこまで手が廻らない。

茅江は、やッと眠つた專之助の手枕をはづして、そつと立つて、行燈へ油をつぎたした。

だいぶ、夜は更けたやうである。

この、いやに白々しい空氣を造つたのは、庄太郎のねたのを聞き濟ましてから茅江が專之助の枕邊へ戻つた時、カタリと、表の溝板が鳴つた。

（おやッ？）

と、顔を振向けると、にいつて來たのは、西兄の惣介だつた。

『おゝ、お兄樣。いま庄太郎さんに、お會になりませんでした？』

『庄太郎に？會はなかつたが』

『どうしたのでせう。たつ今、歸つて行つたのです……今夜はお兄さまと三

遠さかつて行く庄太郎の足音が、ぜの夜闇の向ふへ消えてゆくのを聞き濟ましてから茅江が專之助の枕邊へ戻つた時、カタリと、表の溝板が鳴つた。

（おやッ？）

と、顔を振向けると、にいつて來たのは、西兄の惣介だつた。

『おゝ、お兄樣。いま庄太郎さんに、お會になりませんでした？』

『庄太郎に？會はなかつたが』

『どうしたのでせう。たつ今、歸つて行つたのです……今夜はお兄さまと三

氣がする。

氣がする。

『遅いこと……』

ふつと、茅江が呟いた。

何を考へてゐるのか、火鉢の前で默然と坐つてゐた庄太郎が、顔を上げて、

『さうですね。どうなつたんでせう？旦那は……いつも、こんなに遅くお歸りなんですか？』

『いゝえ』

茅江は首を振つて、左手を首筋へ廻し、後れ毛を掻き上げた。袖裏の赤い色が

『とも』

庄太郎は　まゝ氣持

『ほんとに、いろ〳〵と御人で、御飯をいたゞかうと存じましたから、あの人にも待つてゐてもらつたのでこざいます。旦那がお歸りになりましたら、よろしく仰有つて下さいませ』

『おゝ』

茅江は、熱つぽい目を上げて、

『もうお歸りですか？庄太郎さん』

『えゝ、歸していたゞきます……』

『まあ！』

びつくりしたやうにち江

『どうなつたのです？お見さまお召物に、いつぱい泥がついて』

『はゝはは、何でもないんだ。何でもないんだ』

と、惣介は、やさしく笑つたゞけである。

其時分、兩國橋へ出た庄太郎が

『おい、庄さん——庄さんちやねわか』

と、誰かに呼び止められてゐた

天氣豫報
小名濱測候所調査
今朝も明日も北西の風晴

吸入用酸素
純度99%

計量器
体温器
寒暖計
秤ノ取緒
垂糸・修繕致シマス。

度量衡
モノサシ
マス
ハカリ

開内薬局
電話四〇番

早春の
小瀧は招く
一日の清遊には……
どうぞ小瀧へ！
お迎へお送りに輕快な馬車の用意があります
鐵道指定旅館
割烹
小瀧
電話小名濱一〇三

鑑定項目
命運の代一てみの前名……るかわもてん何
体力　肉体（健康、不健康、相貌）
疾病（病根病勢、病名）に關する一切
活動　職業（適業、不適業）
天運（天運、成功、不成功、災厄）に關する一切
血緣　家族運（父母の緣、夫婦の緣、子供の緣）
男女緣（氣質、相性、相冠、婚期方位に關する一切）
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名

日本姓名學會東北支部長
鵜沼孝昌
平市紺屋町　三六

内科一般
外科
花柳病科
（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九番

加奈陀系銀狐、純血エゾ狸
東北系多產種狸、フイッチ日本テン
大型種兎アンゴラ兎、雑子家禽各種
平產業養狸組合事務所
乾產業會社畜產部
國策アンゴラ兎採毛協會
福島縣磐城種畜場
内郷村塩（平市外）
出張所　平驛前　電六四八番
分讓所　東京市淀橋區下落合

◇藥品飼料養魚各種劑◇
◇ジスランバー液
防液
東亞製藥所製
綜合ビタミン劑
◇ヴイベリン末（動物わかもとの稱あり）
◇フイッシミール
魚養魚粉
北里研究所製
病理研究、診療
魚養劑の配劑
飼育指導の需に應
擔任技師　獸醫師

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
一變せる勉强振りを、せひ一度お試をこふ
『万』織田材木商店へ
福島縣平市
電話平四六〇番
營業目
建築木材一式
銘木・ベニヤ板
秋田產杉四分板種
建具材・便利瓦
◉小店員募集
年齢十五歳ヨリ廿歳迄

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します、
福好工業合資會社
代表者　强口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します、

◇開店御挨拶◇
味覺を本位として、新しい歡びに充ちて生れた山茶は、味道の客一殊に家族連れ一日本料理と壽司とを主としたモダン割烹で御座います。
當店は家族的な團欒を强調し、設備調度は申す迄もなく、店内の雰圍氣を常に明朗にして氣品を高め、潔淨にして秩序あらしめ、それに美食を配して、御客樣が、極めて氣輕に至味三味に入らんことをーモットと致し、萬事にゆるがないたして居ります。
美味無限の山茶！
眞にお客樣本位の山茶！
御家族御同伴の山茶！
これこそ、高らかに產聲をあげた山茶の眞價でございます。何卒御愛顧と御利用下さいます樣切望いたします。
平市仲田町
山茶
主人敬白

看護婦一及見習
看護婦募集
共ニ經驗ノ有ル方ヲ望ム
植田町本町
前田醫院
電話一二四番

聖戰下のプレゼントに
パアロット万年筆
斷乎として金を使用せず
御祝の記念文字彫刻無料
タヲレテモ　コボレヌ　インキ進呈
平市特約店
佐々木商店
電話二三三番

むかし昔
その昔加賀百萬石いよ〳〵ハコが入るの樣になりました
とうぞ御贔負
願ひます
平市田町
御料理
田毎
電話六三二番

實用新案
第一八七四三〇號
意匠登錄
第六六一六七號
石田式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絶對安全！御使用に御便利な！
石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。
平市五丁目
和洋鎭物
金物問屋
釜屋商店

去年より一日晩く
平均から二日早い
小名濱測候所花の打診

櫻咲く卯月初旬にあるまじき遠山なみの冠雪は、花待つ人を悔え上らせて折角當て込んだ日曜祭日二日續きの休みを根底から全潰しにしてしまつたがこんな季節外れの寒波襲來に今年の花は果してどんな具合か、そこで小名濱測候所が詳細な根據に基いて次に花の御託宣

春の魁である櫻花の早晩は観光家としては重要なる氣候觀及樹齢等によりて開花の目安となつて居る殊に本相當の相違があれば從來の年の如く太陽黒點數が極大となつて居るので一部の者が心配を抱いて居るだけ尚更早く離り度い所である。當地三月中の平均溫度と（昨年まで一日六回平均値で算出したるも本年からは象觀測法の變更から一日三回平均となり六回平均値に較べ二日早い櫻樹の位年の如く太陽黒點數が極大統計資料は小名濱公園内酒屋料理店下の樹を標準にし地よりも何時も一兩日早い云々

去年三月中の平均溫度 T は誤差を加算してo.47度である

以上算出したる所本年櫻の滿開は四月十八日となつた

是れを昨年の滿開日四月十七日に較べれば一日晩く平年

滿開日＝40°93－4.19T

本年三月中の平均溫度 T

七日に較べれば一日晩く平年會では四日午前十時から福

一日平均約八十車增
去月中の常磐送炭統計

このごろ暫くリボートが入らなかつた常磐炭發送高の去月統計によると去月二十一日以降三十一日迄の分は營業用七、一〇五車、九〇、五二五瓲、鐵道用一、六五五車二二、五三七瓲　合計八、七六〇車一三、〇六二瓲

一六八瓲、合計六六七車
一七、三二〇瓲

一日平均六十車五百六十瓲

前年同期に比し全面的に左記增加を示して居る

營業用五六五車一四、一五二瓲　鐵道用九二車三

近の增加は大常磐炭田と一營業用七、一〇五車、九〇、五二五瓲、鐵道用一、六五五車二二、五三七瓲　合計八、七六〇車一三、〇六二瓲

前年同期に比し全面的に左記增加を示して居る

營業用五六五車一四、一五二瓲　鐵道用九二車三

云ふ割り合で其間旺盛な時局反映を見せてゐる

救護事務指導
十日市役所で

平市並に石城郡下の救護法並に母子保護事務指導を兼ね十三年度救護費算精算書其他報告書取纏めのため縣では來る十日午前九時から平市會議事堂にこれが指導會を開く

ヒゲの林さん來平
今夜公會堂で晩餐會

元首相陸軍大將林銑十郎氏島聯隊區付中野正太中佐を迎へ時局講演會

武道會延期
忠魂祭關係で

來月七日に變更

石城武道奬勵會主催第二回武道大會は來る九日に延期開催の豫定で準備を進めて來たが同會二日目の十日は恰も忠魂祭に當り選手に對する種々の關係上更に來月七日に延期する事になつた

原田部長退職

巡査部長原田七郎氏は去月

明るい入學式
市内各校で夫々擧行

渾身の努力を傾け悉くした苦闘が酬いられて首尾克く憧れの學窓に入つた市内男女三中等學校新入學生約六百五十名の嬉しい入學式は昨三日の磐中を皮切りに磐女、商業が各明五日を以て夫々擧行されるが服裝の揃はぬ新入生が、國地晴れやかに街を行く姿は、明るい春の一點景を見せてゐる。尚ほ在校生の始業式は何れも今四日を以て行はれ、過ぎし難關突破の寛ろぎ中にも、今後に處する一脈の緊張味を漂はせて居る

お笑ひ二人組强盜劇
金を落した若妻の一と芝居
春宵・平署員惱ませる

同日晝一時頃二人組の强盜『ケサヨ』さんを縛り上げて短刀を突きつけ口中に毒の入つた新聞紙をつめ込み「騒ぐと死ぬぞ」と云ひ棄て現金三圓七錢を强奪逃走したとい

屆け出により平署では全署員を非常召集躍起の活動を續けたところ今曉三時に至り狂言と判つてこの『二人組强盜劇』も微苦笑裡に幕

當のケサヨさんは主人の留守中近所で現金四圓を紛失その申し譯け？にこんな嘘り芝居を組んだものだが縛りつけた荒縄もいと

坂本氏退職
平調度社長管

平調度社長管理賣新聞平通信部主任坂本浩氏は此度二十年來の新聞記者生活から退き平調度社收入役三島五一郎氏は此程辭職、目下後任物色中

事務方面大量採用
入山で新進養成開始

壽老會献金
市内大平間フチ子さん、七丁目壽老會で恤兵金十圓を代表伊藤長三郎氏から市役所へ

献金
小名濱小學校高二平間フチ子さん

尋二平間テル子さんは過般小泉中佐のお話を聞いて感激、お小遣を節約金一圓を平署を通じ献金

花を拔露目
花を控へた新田町の枕事異動は極めて頻繁である。最近もかね榮から超現代的美形『かよ子』が出現、大いに張り切つてゐる

平市慶弔錄

△出生　本籍大工町茨縣縣磯原町早立增藏氏七女琴さん

▲死亡　才槌小路高久又三郎氏（五六）　鎌田町鈴木カツさん（三九）　一丁目殿塚おうさん（三九）　本籍材木町神谷村鎌田二面首さん（五一）

五目
（小名濱測候所發表）

滿潮　前　二、五五　三、五五
干潮　前九、三五　後九、四五

日興銀行で金融相談
來月六日から平市へ

日本興業銀行東北支店では一般金融並に時局下に於ける振興資金轉業資金の融通相談に應ずるため來月六日から隔月毎に巡回相談所を開設、一般金融上の相談に應ずることになつた

一巷の埃
◇上遠野村上遠野鈴木健治君（一七）は一日朝九時半頃お父さんの用で平驛から鍛冶町健康堂に行く途中現金百六十圓と貯金

通帳在中風呂敷包みを紛失昔くなつて平署へ屆けた處間もなく健康堂の玄關の脇から發見、會計さんから『今後は充分氣を

草野で植樹祭
けふ愛林デーの營林署

けふは全國愛林デー。平營署長以下署員十二名が部落村海岸で植樹祭を執行樋口赤松千本を植えつける一方種々の企てによつて愛林思想の普及につとめた、今後は大野村白岩地内に植樹する

事務方面大量採用
入山で新進養成開始

つけて……」と諭され大喜びで歸つて行つた

木田彌作氏
好間郵便局長古河礦業所用地係木田彌作氏は般過來兎角健康勝れなかつたが、昨三日午前十一時終に長逝した、享年六十三歳・葬儀は明五日午後二時同村龍雲寺に於て執行するが生前村長其他公職に在つて少からず村治に盡した人として一般から其の死を惜まれてゐる

二井みき媼
市内南町履物商三井文吉氏母堂みき媼は先ごろ來風邪にて只管療養中藥石効なく昨三日午後九時三十分永眠、明後六日午後一時天理教墓地で告別式を執行する、享年七十三歳、信仰の生涯を通じ大理教の布教に貢献した人

夜診
胃腸病性疾病
（見習看護婦募集）

内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科

專門
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電話一〇七番）

療養
看護婦至急募集
（委細面談）
高柳醫院

藥
專門藥
りん病　一週間分參圓（黑）五圓（赤）
岩里別府淋藥
痛みある病。熱ある病
岩里別府散　七包入五十錢　十五包入壹圓
製藥本舗　別府市　岩里天然堂
平市古鍛冶町一〇
代理店　阿康藥局
電話四十四番
振替東京三〇〇六五番

母磯の
榮養元
定價（十二錢　二十錢　四十錢　六十錢）
專賣權下の今日國民榮位の向上は國家發揚の重大要素であります、今回新發賣の『榮養元』は特に此の點につき多年研究の結果鯛・昆布・ハイガー其他の有効養分のみを獨特の製法により精製したる理想的榮養國民食糧であります。
福島、茨城縣下發賣元
（野村生命保險株式會社代理店）
海陸物産委託問屋　安孫子才三郎
平市六丁目（電話五五一番）

平市榮養元販賣店
長橋町仙臺屋　研町丸井屋
土橋マルマ　同金成商店
二丁目北海屋　材木町大喜多屋
三丁目高木屋　田町平マーケット
同丸三商店　同生田目魚店
南町平館隣り廣田商店　四丁目しわや
五丁目正木屋　三國屋商店
新川町伊勢屋商店　同新川町石川屋商店

御挨拶

小生儀四月一日ヲ以テ平市主事ヲ退職仕候。在任中ハ公私共一方ナラザル御厚情ヲ蒙リ感銘ニ堪ヘズ謹テ御禮申上候。尚今後共不相變御厚誼ノ程希上候乍失禮以紙上御挨拶迄如斯ニ御座候

敬具

平市下平窪
草野常彌

宮内省、陸海軍省御用品
松村胃腸性病科醫院